

# 地域再生を目的とした産学官連携の活動報告

北風裕教\* 宮元章\*\* 岡野内悟\*\*\* 岡村健史郎\*\*\*\* 岡宅泰邦\*\*\*\*

## An Activity Report on Industry-University-Government Cooperation Aimed for Local Reactivation

Hironori KITAKAZE, Akira MIYAMOTO, Satoru OKANOUCI,  
Kenshiro OKAMURA and Yasukuni OKATAKU

### Abstract

Suo-Oshima town in Yamaguchi Pre. has been facing the problem of ageing society with fewer children and depopulation. To solve it, Oshima National College of Maritime Technology as the creation foothold of the talented persons is promoting a program for the local reactivation in connection with the town to solve the problem. The method of local reactivation is to give free lectures by the college teachers in the fields of technology and entrepreneur training to the residents who are planning new business in the town. In order to produce entrepreneurs we've made the curriculum consisted of the entrepreneur training basic course (the basic) and the applied courses such as the product development, an experience-based sightseeing, and the Web and animation creator training courses in these two years. If excellent entrepreneurs are brought up, various new businesses will stand up and lead to the new employments and the activation to the town.

In this paper, we describe the problems and the methods to solve them of the program. In addition, we report the activities in each curriculum and the future policy to develop the program.

Key words: Local reactivation, Co-operations between industry and university, Small Business

### 1. 緒言

平成 20 年度文部科学省科学技術振興調整費、地域再生人材創出拠点の形成に大島商船高等専門学校（以下、本校と呼ぶ）が企画した地域再生案「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」（以下、通称である“島スクエア”と呼ぶ）が採択された。地域再生人材創出拠点の形成は、高等教育機関の教職員や学生、設備や装置を活用して、地域再生の中核となる人材を養成し、地域再生を目指すものである。本校のある周防大島町は合併前の旧東和町において 20 年連続高齢化率が日本一となり、少子高齢化・過疎化が止まらない状況で、外部資金の導入により地域再生を目指していた。文部科学省の再生案の将来像と周防大島町の再生計画が一致して、科学技術振興調整費の採択

に至ったと言える。

島スクエアの活動は、起業を希望する住民と町役場や地元の自治体、そして本校が如何に効率よく連携するかが重要課題であった。しかし容易にはこれらの連携体制を整えることはできなかった。

そこで本稿では、周防大島町を活性化させるために、これまでにプロジェクトとして取り組んできた島スクエアの活動について記述する。また、初年度（平成 20 年度）の基礎コース（起業家養成基礎コース）におけるカリキュラムの構築と講師の選定、講座の状況を検証し、結果を踏まえて新たに組まれた平成 21 年度の基礎コース（起業家養成基礎コース）・応用コース（web・動画クリエイター養成コース、体験型観光起業コース、商品開発起業コース）の講座について述べる。さらに、

今後の本校における運営の在り方、問題点を考察したので報告する。

## 2. 島スクエアの経緯・背景

### 2.1 周防大島町の問題点

本校が位置する周防大島町（2004年10月に6島4町が合併）の人口合計は昭和22年では64,928人であったが、平成21年9月1日には20,183人となり<sup>1</sup>、62年間で人口が3分の1以下となっている。現在もひと月に約25人の減少がみられている。昭和51年には本土と島を橋で結ぶ大島大橋が架橋され、平成9年には橋も無料となったが、商店街の空洞化と若年人口の流出を加速させる結果となった。島内にあった9校の中学校も第1期統合（平成21年4月）によって5校となった。平成29年4月には1校とする第2期統合案も計画されている。地元産業の衰退も著しく、第1次産業で生計を立てている住民も少子高齢化・過疎化により、技術の継承がなされることもなく、農地は荒れ、漁船が出港しないことも多い。島内は平野面積も少なく高速道路も隣接していないので、企業や工場の誘致による雇用創出による地域再生も現実的ではない。島内で新しい店舗が開店しても、夏の時期以外では観光客が見込めないため、島内の客の奪い合いとなり、既存店が潰れる可能性が非常に高い。このような悪循環があるこの島を救うためには、島外観光客の集客が必要で、どのような客に対しても質の高いサービスを十分に提供できる講座が島スクエアには求められた。

### 2.2 島スクエアのミッションステートメント

本校がミッションステートメントに示した目標として、起業家としての基礎知識を学ぶ「起業家養成基礎コース（基礎コース）」、地元農産物や海産物から新しい商品を開発する「商品開発起業コース（応用コース）」、都会からの観光客に自然を体験し収益を得る「体験型観光起業コース（応用コース）」、地元企業情報をネットワークを活用してPRする「Web・動画クリエータ養成コース（応用コース）」を開設し、3年修了時では、基礎コース修了者で22名、応用コース修了者で38名を、5年修了時においては、基礎コース修了者で38名、応用コース修了者で78名の修了生を輩出すること、その中の10名程度が新たな島のコア的な起業家となり、雇用を創出して周防大島町全体の地域再生を目指すことを文部科学省に掲げた。

そのために本校では、教職員によるユニット運営機関と地域協力団体やメンター委員（図1）がバックアップするとともに、将来的には、NPO法人等を独自で設立し、起業家養成・支援事業の立ち上げを計画し、自立的経営可能なスタイルを目指している。

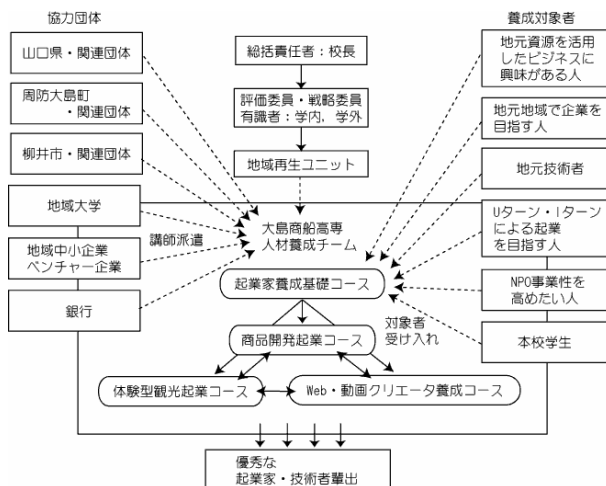


図1 島スクエアの組織図

### 2.3 周防大島町の地域生成計画概要

周防大島町は本校の科学技術振興調整費の採択により、島スクエアの活動を周防大島町地域再生計画に取り入れ、複合的な産業（第六次産業）を目指すことを宣言している。ここで、第六次産業とは、第一次産業、第二次産業、第三次産業を $1+2+3=6$ または $1\times 2\times 3=6$ のように複合的に組み合わせることで生み出される産業である。

以下に周防大島町地域再生計画を一部抜粋したものを示す。

周防大島町の産業は、柑橘栽培を主とした農業と沿岸を漁場とした漁業の第一次産業を中心に発展してきたのが、価格の下落、後継者不足などの取り巻く環境の変化により衰退が見られる。また、観光についても、豊かな自然や歴史文化という地域特性を生かし事業を図ってきたが、そのまかないは衰えつつある。こうしたことから、第一次産業を多面的に活用し、観光を基軸とした複合的な産業を創造するため大島商船高専と連携し、新たな地域資源を創出し、また、情報を活用し起業できる人材の育成を行い、交流人口の拡大による産業の再建を図る。

(周防大島町地域再生計画 一部抜粋)

### 2.4 起業家養成を行う利点と展望

受講生に対して本校が起業家養成の講座を行うことによって、第一次産業（農業・漁業）などの自営業者（起業家）が、現在の収入にプラスαの

収入が見込めるようになり、生活がこれまでよりも豊かになり活力が出るのが予想される。また、起業により意欲向上が芽生え、責任を考えるようになり、公共事業依存からの脱却をはかることができることや、能力を生かしサービスを多様化することで生活の質が向上すること、そしてUターン、Iターンが見込めるようになり人口増加に繋がるのが考えられる。

この事業が成功すれば、今後、状況に近い国内の地域において「人材養成を基軸にした地域再生による過疎化地域の活性化」を文部科学省が中心となって行っていくことになる。そのモデルケースとして大島商船高等専門学校と周防大島町が選ばれたことを本校の教職員は誇りに思い、現在はこの非常に重要な任務とそれに対する責任を感じながら情熱的に取り組んでいる状況である。

全国各地にある50を超える高専も本校と同様に校外から離れた箇所に設置されている場合が多く、地域の少子高齢化・過疎化の問題に直面している。我々の願いは、少なくともこれら高専が存在する地域においては、地元住民と協力して地域活性を目指すことができる仕組みを残していきたいと考えている。そして、国内の小学校、中学校、高等学校、大学においても起業家養成の人材養成機関の拠点となっていける仕組みを作っていくことができればと考える。次に、我々が行ってきた仕組みづくりについて記述する。

### 3. 起業家養成基礎コースの準備と運営

平成20年度は科学技術振興調整費に採択された初年度で、プロジェクト立ち上げのための準備期間が必要であったため、“起業家養成基礎コース”のみが開講された。周防大島町の地域資源の活用法や新規事業のプランニングを学ぶコースが、起業家養成基礎コース（基礎コース）である。このコースは、周防大島町にUIターンし起業を志している受講生、周防大島町や近隣在住の方で、周防大島町の地域資源を活用した何らかの事業構想を持っておられる方を受講対象とする。事業計画書を携え起業・新規事業の実現を目指すことを将来像とする。この講座を修了すれば、農産品を活用した商品開発や観光体験サービスによる起業など新規事業を目指す応用コースを受講できる。

起業家養成基礎コースが開講されるまでに、カリキュラムの作成と、講師の選定が行われた。また、受講生の起業を支援するための戦略委員及び、島スクエアの運営を管理する外部評価委員の選定を行ったので報告する。

### 3.1 カリキュラム作成と修了要件

平成20年度の起業家養成基礎コースのカリキュラムは、本校教員による科学技術の講座と起業家養成のための講座を合わせた内容で検討した。表1と表2に基礎コースのカリキュラムを示す。

受講料が無料であるので、年間を通して受講生がモチベーションを維持することのできる講座内容と環境づくりが重要課題であった。

受講生は仕事をしながらの受講になるため、全ての講義を受ける事は非常に難しいと考えて、講義を受けることが出来なかった場合には、こちらから講義を収録したDVDを郵送し、自宅で視聴した後、レポートを提出すれば、出席とみなすように工夫を行った。以下に修了要件を示す。

#### 講義の修了要件

- ①ビジネスプラン作成と発表
  - ②全講座の80%の出席率（全24回で20回以上）
- 出席の定義：当日出席、DVDレポート提出

表1 起業家養成基礎コースのカリキュラム(1)

回目	講座名	月日(金)	内容
1	島スクエアとは	10月3日 2.5時間	開講挨拶 島スクエアのビジョン 周防大島町の地域再生ビジョン 受講生・ユニット・メンターの自己紹介
2	成功のヒント伝授(1)	10月10日 2.5時間	島の先輩起業家から成功のヒントを伝授 ビジネスアイデアの目利き
3	自分の仕事を描く(1)	10月17日 2.5時間	周防大島町の歴史を知り「自分の仕事」を進化させる「自分のつくった壁」は何か？ あなたの本当のやりたいこと 価値観分析 自分ビジョンシート 自分づくりシート
4	自分の仕事を描く(2)	10月24日 2.5時間	「5歳サバよみ」取組シート 自分ブランド4P分析 「仕事×スキル」マトリクス スキル棚卸シート
5	自分の仕事を描く(3)	10月31日 2.5時間	ポジショニングマップ 自分ロードマップ 自分SWOT分析&4つの打ち手 自分戦略シート
6	大島商船の科学技術 ×自分の仕事(1)	11月7日 2.5時間	ネットワーク技術で「自分の仕事」を進化 ネットワーク技術1(有線LAN) ネットワーク技術2(有線LAN, WAN) ディスカッション
7	大島商船の科学技術 ×自分の仕事(2)	11月14日 2.5時間	太陽光発電で「自分の仕事」を進化 太陽光発電の応用1 太陽光発電の応用2 ディスカッション
8	大島商船の科学技術 ×自分の仕事(3)	11月21日 2.5時間	ロボットで「自分の仕事」を進化 ロボットの活用1 ロボットの活用2 ディスカッション
9	大島商船の科学技術 ×自分の仕事(4)	11月28日 2.5時間	xICT経営で「自分の仕事」を進化(1) xICT経営とは 地域資源xICT経営で「自分の仕事」を進化 ディスカッション
10	大島商船の科学技術 ×自分の仕事(5)	12月5日 2.5時間	xICT経営で「自分の仕事」を進化(2)
11	広島からの視点 に学ぶ	12月12日 2.5時間	瀬戸内海スローツーリズムと周防大島 ～島の経済交流の活性化に向けて～ デザインストーリー ヒロシマ資源を活用したヒットお土産づくり 広島からの目でビジネスアイデアの目利き
12	成功のヒント伝授(2)	12月19日 2.5時間	大島商船が排出したBターン仕掛人 島のヒット商品づくりとWebの双方向性活用 プロ仕掛人によるビジネスアイデアの目利き メンターによるビジネスアイデアの個別相談 ビジネスアイデアの発表
13	島起業支援	12月26日 2.5時間	やまぐちスローツーリズムの成功事例と 支援内容 国や山口県等で実施している起業支援 起業支援のプロによるビジネスアイデアの 目利き

表2 起業家養成基礎コースのカリキュラム  
(2)

回目	講座名	月日(金)	内容
14	デザイン戦略	1月9日 2.5時間	簡易デザイン企画書づくり: ・コーポレートアイデンティティ(CI)概要 ・CIの具体的事例からブランド戦略を検証 ・カード、チラシ、ポップ等の効果的デザイン ・デザインと知的財産
15	Web戦略	1月16日 2.5時間	簡易ホームページ企画書づくり: ・Webの素人がホームページを持つには ・難易度別の更新方法 ・訪問者とのコミュニケーション ・おすすめアクセス解析の使い方と重要性 ・検索上位表示(SEO)のコツ ・動画のメリット、デメリット
16	ビジネスプラン策定(1)	1月23日 2.5時間	ビジネスモデル・コンセプトを決定する ・ビジネスモデルの背景、 問題意識の明確化 ・ビジネスモデル、コンセプトの仮説化
17	ビジネスプラン策定(2)	1月30日 2.5時間	仮説検証サイクルを回す(1) ・コンセプトの仮説を検証する ・ベンチマーキング分析& ベストプラクティス実施
18	ビジネスプラン策定(3)	2月6日 2.5時間	仮説検証サイクルを回す(2) ・ドメインを決定する
19	ビジネスプラン策定(4)	2月13日 2.5時間	戦略的目標としてのビジネスビジョンの 設定 ・市場規模を算定する ・ビジネスビジョンを設定する
20	ビジネスプラン策定(5)	2月20日 2.5時間	ビジネス戦略を体系化しプランツリーで 構築 ・ビジネス戦略体系を構築する ・ビジネス戦略をアクションに落とし込む 事業収支・評価・リスクのシナリオ作成(1) ・事業収支と事業評価の想定
21	ビジネスプラン策定(6)	2月27日 2.5時間	事業収支・評価・リスクのシナリオ作成(2) ・事業収支と事業評価の想定 ・分野別の資金調達手法 事業収支・評価・リスクのシナリオ作成(3) ・事業収支と事業評価の想定 ・コンセプトマップ
22	資金調達・運用相談	3月6日 2.5時間	起業支援での銀行の役割、出資成功した 起業家 ビジネスプランの5分プレゼン 投資のプロによるビジネスプランの目利き
23	プレゼンテーション	3月13日 2.5時間	島コースプレゼンテーション
24	島スクエアビジネス プランコンペティション	3月14日 2.5時間	特別講演 島の起業家たちによるトークセッション 島コースプレゼンテーション

の放課後に会議を行った。また、近隣地区における観光事業の成功例を学生と取材し、金魚島インターネットテレビで放映するとともに、周防大島の問題点を検討した。これらの活動の積み重ねにより、起業家養成基礎コースが進行された。



写真1 起業家養成基礎コースの授業風景

平成20年度の起業家養成基礎コースは10月3日から3月14日まで全24回・毎週金曜日の19時から21時30分に行われた(写真1)。講座のスタッフは30分前から受付会場の準備を行い、受講生に対して出席の確認と、当日行われる講義用の資料を配布した。講義中はビデオ撮影と写真撮影を行った。また、講義が終了したら、受講生は同志の交流の為に会場に残るため、22時ごろに後片付けを行った。

### 3.2 「島スクエア」実施スタッフの選定

平成20年度の島スクエアの講義は、専門知識を有する起業家および本校教員20名により行われ、15名以上のスタッフにより運営がなされた。また、戦略委員は遠方の方ではなく連絡を密にとれ容易に受講生の相談に乗ることが可能な近隣の企業経営者12名に協力して頂いた。一方、運営方針を検討し評価する外部評価委員は、遠方では東京に本社のある経営者など客観的に判断を行うことが可能な有識者13名に協力して頂いた。

### 3.3 島スクエアと基礎コースの運営

島スクエアの円滑な運営のために、次回講座準備状況の確認、講座のアンケート結果による反省会、次年度のカリキュラムの作成、広告宣伝に関する準備状況確認、修了発表会の準備、フォーラムの準備、戦略委員会・外部評価委員会の準備、報告書の内容確認などの項目について毎週火曜日

### 3.4 受講状況からの反省点とアンケート結果

初年度の受講生はUIターンの方が多く、料理人であったり、漫画家であったりと技術的能力の高い方が集まっていたため、自分の描く将来構想にそれほど関係ない本校教員による科学技術の講座は、それほど人気があるものではなかった。

また、PR活動におけるプレゼンテーション能力を高めるため、模造紙に事業計画のプランを記入してもらい、口頭で発表を行わせる練習を多く取り入れる計画を立てたが、積極的な性格の方だけが講義に参加し易い状況となり、消極的な性格の方は授業を途中で辞めていく事態に陥った。これらの原因から、講座の開始当初24名であった受講生は、最終的に18名の修了(75%修業)となり、修業率の問題は残ったが、本校が目標とする初年度修了人数6名は十分に満足することができた。

表3 講座のアンケート年間平均

アンケート内容	平均値
1. 講師の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか	4.44
2. 講師の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか	4.31
3. 講義は適切な進度ですすめられていましたか	4.26
4. 講義の内容には、準備・工夫がなされていましたか	4.26
5. 配布資料は講義を理解するのに役立ちましたか	4.23
6. 授業を進める中で、疑問があれば質問しやすい雰囲気でしたか	4.17
7. 講義のレベルは適当でしたか	4.16
8. 講師は講義に対して意欲的で、熱意が感じられましたか	4.43
9. この講義によって、起業に対するあなたの興味や関心が深まりましたか	4.14
10. 総合的に見てこの講義を高く評価していますか	4.29
11. あなたはこの講義に熱心に取り組まれましたか	4.44

1回の講座が終わる都度、受講生へアンケートを行い、5段階評価で講義の内容や進行速度などの評価を受けた。表3に受講アンケートの内容と11項目の1年間の結果の平均を示す。この結果から講義のレベルと質問のしやすい雰囲気づくりが必要であることが分かった。また、起業に対する興味や関心を深める講義を1年間通して準備する必要があることが明らかとなった。図2に各講座における11項目の平均を示す。横軸は、講座の種類で縦軸は評価点である。グラフ中のデータラベルが丸で囲まれている講座は科学技術分野の講義である。この結果から、本校教員における科学技術分野の講義の評価が低いことが分る。この内容に関連する要望は、アンケートの自由記入欄にも多くの受講生が記述しており、科学技術分野よりも起業家養成分野の講義内容の方を基礎講座では求めている結果となった。この結果は、次年度以降の講義の参考にするために用いることにした。

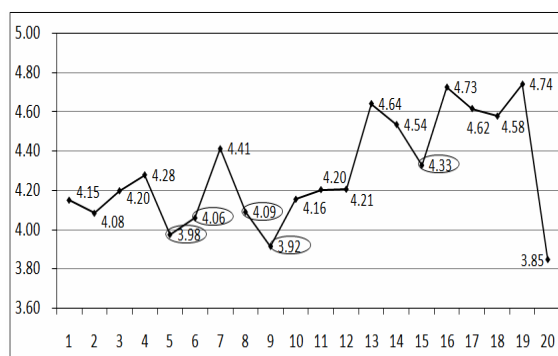


図2 各講座のアンケート結果

### 3.5 最終発表とフォーラム

平成21年3月13日(金)に受講生の修了発表会を行った。発表は5分間で、発表後に3分間の質問時間を設けて行った。発表会に対する評価は戦略委員が行い、発表内容の質と質疑の対応によ

って修了要件を満たしているか判断してもらった。発表者は10名であり、発表当日に予定があり発表会に参加出来なかった受講生に対しては、別の日を設けて発表を行った。豊富なアイデアと戦略方法について、熱心に話す方もおられれば、核となるビジネスアイデアを発表してしまうと、アイデアを盗まれる可能性があるといった、隠す受講生など様々であったが、有意義な時間であった。修了生には本校校長から、修了証書が手渡された。

平成21年3月14日(土)に大島防災センターで島スクエアフォーラムを一般の市民を対象に行った(写真2)。この目的は、島スクエアの活動を地域住民に広く知ってもらい、起業家支援になってくれる人材を探すことと、大島町民が感じている起業についての問題点や感想などを直接聞きだすことにあった。フォーラムは2部構成で、第1部は、校長と町長の挨拶、そして島スクエアの一年間の活動報告がプロジェクトリーダーによって行われた後、島スクエア起業家養成基礎コースの受講生による事業プランの発表が行われた。ここで、受講生の中から代表として3名の方に発表してもらい、多くの質問を受けた。第2部は「“地域”を元気にする企業のアイデア～農商工連携の成功事例・失敗事例～」と題して農林水産省「食と農のブランド協議会」委員であり、株式会社エイガアルを設立されている伊藤淳子氏に講演を開いて頂いた。フォーラムは約100名程度の方が集まり、受講生にとって非常に大きな成果となった。

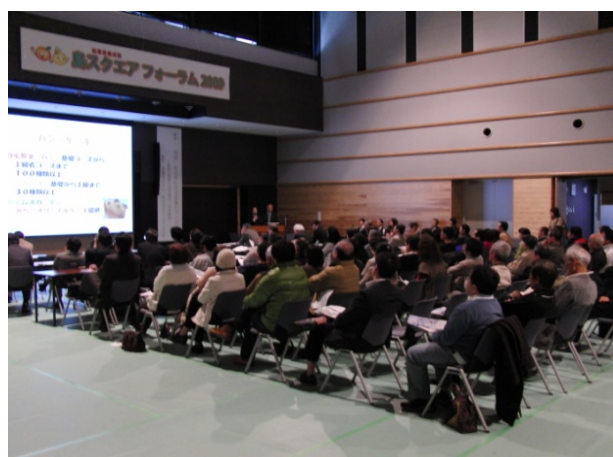


写真2 フォーラムの様子

### 3.6 第1期修了生の状況

第1期修了生の内、4名(2名と1組)の方が身につけられた知識と人脈を生かして起業に至った。この方々は、U・Iターン組で以前から技術的

な力をお持ちの方々であり、島スクエアで改めて基礎的な講座を受けて、起業に向けての準備をされてきた方々である。その他多くの受講生は、引き続き応用コースの受講を希望され、新年度からの講座を受講されている。

#### 4. 反省点を改善するコース設定

平成 20 年度の起業家養成におけるカリキュラムの構築と講師の選定、講座の状況を検証した結果、平成 21 年度の基礎コースと応用コースのコース目標と概要、開講期間、養成対象者などを次のように決定した。

##### 4. 1 起業家養成基礎コース(2 年目)

###### 4. 1. 1 起業家養成基礎コース(2 年目)の概要

本コースの目標は、周防大島町の地域資源を活用した起業または新規事業の計画を各自でまとめ、事業計画書を作成することである。

コースの実施手順は、以下の①から⑤のとおりである。

- ①スタッフの確保
- ②カリキュラム作成と講師依頼
- ③修了要件の確認。受講生の募集と選考
- ④講義の準備。実施と改善
- ⑤修了の確認

コースの実施は、学内の教職員によるスタッフと特命教授、コーディネータなどの学外のスタッフで行う。学内のスタッフは本校の設備やその使用手続き、管理方法など実状を把握しているため、不可欠である。本講座の内容は本校教員だけでは専門性に欠けるため、特命教授として中小企業診断士の方に講義内容の構成を依頼した。また、コーディネータとして町内で地域再生の活動に取り組む方に、受講生への対応をお願いした。

カリキュラムは、昨年度の反省から今年度の講義回数を 12 回としてスタッフで相談し、講義の流れと日程を決めた。今年度は、5 月 15 日から毎週金曜 19:00~21:00 の 2 時間とした。また、カリキュラムに従い、適当な外部講師を選定し、早めに依頼を行った。

平成 21 年度起業家養成基礎コースのカリキュラムを表 4 に示す。受講生の定員は、管理の都合などから 20 名程度としたが、本コースは広い教室で講義の形式で行うため、実際には数十名の受け入れも可能である。そのため、何らかの事業計

表 4 起業家養成基礎コースカリキュラム

回目	講座名	月 日(金)	内 容
1	現状分析	5月15日	・周防大島町の地域資源 ・SWOT分析 ・起業テーマで自己紹介、目標宣言
2	マーケティング戦略	5月22日	・戦略の構造(どんな計画をつくるのか) ・基本戦略 (=コンセプト=ドメイン=事業領域)
3	マーケティング・ミックス	5月29日	①商品・サービス②価格 ③店舗、立地、販売経路 ④販売促進 現金回収の仕組み
4	数値計画	6月5日	・数値計画の構造(どんな計画をつくるか) ・必要売上高の想定 (投資・資金調達、運転費用) ・予測損益計算書の作成
5	事業計画・中間発表	6月12日	・5つのSTEPにより事業計画を作成 ・それぞれの事業計画を発表し検討
6	起業家から学ぶ(1)	6月19日	着地型観光等による観光振興の事例と 周防大島での観光起業の可能性
7	起業家から学ぶ(2)	6月26日	6次産業型の都市農村交流事業の事例と 周防大島での6次産業の可能性
8	起業家から学ぶ(3)	7月3日	瀬戸内ジャズガーデンの事例と 周防大島での6次産業の可能性
9	起業後の心がまえ	7月10日	・起業の心がまえ ・事業計画の相談
10	発表準備(1)	7月17日	・プレゼンテーションを成功させるスキル ・Microsoft Office PowerPointによる プレゼンテーション資料の作成
11	発表準備(2)	7月24日 8月23日	まとめ。プレゼンテーションリハーサル
12	修了発表会	7月31日 8月30日	・自分の事業計画をプレゼンテーション ・修了証書授与

※新型コロナウイルスで学校が休校のため、11回目と12回目の講座は日程を変更して行う。  
※日程変更により、修了発表の補講を9月25日に行う。

画を持ち、起業の意思があれば、可能な限り受講生を受け入れる方針とした。受講希望者の起業の意思などを確認するため、15分程度の面談を行った。面談の際には、考えている事業内容を面談資料として提出してもらった。また、講義のカリキュラムを配布して日程を確認してもらい、実際に出席が可能であるかを伺った。その際、修了要件についても受講生へ確認した。

修了要件は、次の3つである。

- ①講義 12 回のうち 10 回以上出席する。そのうち実際に来て受講するのが 6 回以上。4 回までは講義の DVD を見てレポート提出で出席に変えることができる。(出席率 80% 以上。実際に来る 50% 以上)
- ②修了発表会で事業内容を発表する。
- ③事業計画書を提出する。

面談の結果、受講生は 20 名となった。広島から週末に通う方や既に事業を始める方など、実際の受講が難しそうな方が数名いたが、受講生の意思を尊重して決定した。

講義の準備は、教室の状態や備品のチェック、マイク・ビデオ録画、パソコンとプロジェクタの設置などの会場準備、講義資料など配布物、講師との打ち合わせ、受付などである。写真 3 に講義の様子を示す。



写真3 基礎コース(2期生)の授業風景

#### 4.1.2 講義の評価

各講義の後にはアンケート調査を行い、改善できることは随時対応した。例として、小さい子を教室の外で見られるプレイスペースの設置や女子トイレの場所の説明などを行った。各講義は全て好評であり、途中で新型インフルエンザにより講義を約1ヶ月延期することになったが、8月の時点で13名が修了した。なお、新型インフルエンザによる補講などを行い、残り数名が9月中旬に修了する予定である。

#### 4.1.3 今後の課題とまとめ

コースを修了し、事業計画書の作成は行いが、実際の起業に結び付けるには現段階では困難な方が多い。これは、平成20年度の起業家養成基礎コースが24講座であったのに対し、平成21年度の起業家養成基礎コースが12講座の半分しかなく、時間も2時間30分から2時間と短縮した影響もある。そのため、修了生に対していかに起業支援を行うかが、今後の重要課題となる。今後は、受講生の応用コースへのステップアップと起業相談会の実施によりカバーしていきたいと考えている。

### 4.2 Web・動画クリエイター養成コース

#### 4.2.1 Web・動画クリエイター養成コースの概要

Web・動画クリエイター養成コースは、デザインの基礎、図形作成・静止画編集の基礎とWebサイト制作知識、動画の企画・撮影・編集、ショッピングサイトの構築法を学ぶ応用コースである。

講義で使用するソフトウェアは、ドロー系ソフトウェアのAdobe Illustrator、ペイント系ソフトウェアのAdobe Photoshop、Webサイト制作のた

表5 Web・動画クリエイター養成コースの  
カリキュラム

回目	講座名	月 日(金)	内 容
1	コース概要	4月8日 2時間	コース全体の紹介、撮影機材、利用ソフトの紹介、簡単な体験、今までの作品や作成予定のサンプル紹介、受講生及び講師自己紹介
2	デザイン基礎(1)	4月15日 2時間	デザインに関する講義①(印刷物、Web、動画全てに共通するデザインにおける基礎知識)
3	デザイン基礎(2)	4月22日 2時間	デザインに関する講義②(色の応用講座やWebの操作性における実践的な話)
4	2D画像処理(1)	4月28日 2時間	オリジナルのロゴやキャラクター作り①(Adobe Illustratorの基本操作、ロゴやキャラクター作りの基本、ベジェ曲線とは、色の付け方)
5	2D画像処理(2)	5月7日 2時間	オリジナルのロゴやキャラクター作り②(Adobe Illustratorでロゴを作る)
6	2D画像処理(3)	5月13日 2時間	写真を使った名刺作り①(Adobe Photoshopの基本操作・写真補正・合成写真)
7	2D画像処理(4)	5月20日 2時間	写真を使った名刺作り②(Adobe PhotoshopとAdobe Illustratorを活用して名刺の作成)
8	Webサイト(1)	6月3日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信①(Webサイト作成ソフト(Adobe Dreamweaver)の基本操作)
9	Webサイト(2)	6月10日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信②(よく使われるタグの紹介、リンクによるページの移動)
10	Webサイト(3)	6月17日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信③(CSSの仕組みおよび書式について学ぶ)
11	Webサイト(4)	6月24日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信④(実際にCSSを用いたWebサイトの作成)
12	Webサイト(5)	7月1日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信⑤(ボックスレイアウトを使ったWebサイトの作成)
13	Webサイト(6)	7月8日 2時間	Webサイトで世界中に情報発信⑥(アンケートフォームの作成)
14	Webサイト(7)	7月15日 2時間	Webサイト作成実習①
15	Webサイト(8)	7月22日 2時間	Webサイトで作製実習②
16	映像制作(1)	9月30日 2時間	質の高い番組作りに向けて①(照明、音響機材の使い方とテクニック)
17	映像制作(2)	10月7日 2時間	質の高い番組作りに向けて②(カメラワーク、ブルーバックによる合成映像の作り方、デジタルカメラでの撮影テクニック)
18	映像制作(3)	10月14日 2時間	質の高い番組作りに向けて③(Adobe After Effectsによるタイトル、エンドロール作成)
19	映像制作(4)	10月21日 2時間	質の高い番組作りに向けて④(Adobe After Effectsによる特殊効果(カラーや動き、モーション、3次元タイトル等))
20	映像制作(5)	11月3日 2時間	CMや記録映像用の素材を撮影しよう(商船祭の模様をビデオカメラ、デジタルカメラで撮影し、CM政策に使う素材とする)
21	映像制作(6)	11月4日 2時間	質の高い番組作りに向けて⑤(Adobe Premiereの高度な利用方法(トランジションとエフェクト))
22	映像制作(7)	11月11日 2時間	質の高い番組作りに向けて⑥(Adobe Premiereの高度な利用方法(マルチカメラ編集、合成、BGM、ナレーション))
23	CM制作実習(1)	11月25日 2時間	動画CMを作ろう①(CMの目的、CMの表現形式、絵コンテ、CM企画書作成、撮影準備)
24	CM制作実習(2)	12月2日 2時間	動画CMを作ろう②(学校や自分の仕事、他コース受講生のCM作成(対象者とCMの方向性を決める、ロケハン、撮影))
25	CM制作実習(3)	12月9日 2時間	動画CMを作ろう③(学校や自分の仕事、他コース受講生のCM作成(編集))
26	CM制作実習(4)	12月16日 2時間	動画CMを作ろう④(学校や自分の仕事、他コース受講生のCM作成(編集、上映、講評))
27	ショッピングサイト構築(1)	2月11日 2時間	ショッピングサイトを構築しよう①(ショッピングサイトの構築方法と注意点、オープンソースを使ったショッピングサイトの構築準備)
28	ショッピングサイト構築(2)	2月18日 2時間	ショッピングサイトを構築しよう②(オープンソースを使ったショッピングサイトの構築・インストール、デザイン修正)
29	ショッピングサイト構築(3)	2月25日 2時間	ショッピングサイトを構築しよう③(オープンソースを使ったショッピングサイトの構築商品登録、テスト)

めの Adobe Dreamweaver、映像・CM 制作では Adobe Premiere と Adobe After Effects である。

平成 21 年度は 4 月 8 日から翌年 2 月 25 日まで全 29 回・水曜日の 19 時から 21 時の 2 時間とした。平成 21 年度 Web・動画クリエイタ養成コースのカリキュラムを表 5 に示す。

講座は、コンピュータを用いた実習形式で行われる（写真 4）。各自治体で行われる IT 講習とは違い、プロが用いる非常に高度なツールを扱う講座となるため、情報技術の経験者を優先して面接により受講生を決定した。現在、本校学生を含む 18 名の受講生が講義を受講している。

講義は情報技術に優れた本校教員・技術職員および特命教授によって行われており、ビデオ映像の撮影技術など本校の教職員でも技術的な面でカバーできない内容に関しては、講座の数回分を外務講師に委託することで対応した。また、いずれの講義においても授業をリードする講師 1 名と演習をサポートするスタッフ 4 名で対応している。



写真 4 Web・動画クリエイタ養成コースの講義風景

#### 4. 2. 2 講義の評価

本コースでは各講義終了時にアンケートを行っている。アンケートは基礎コース同様、表 3 に示す項目で項目ごとに 5 段階で評価をしてもらう。その結果をもとに講義の内容や進め方の反省を行い、今後の講義の進め方や次年度のカリキュラムの参考としている。図 3 にアンケート結果を示す。なお、第 1 回講義はオリエンテーションであったためアンケートは実施していない。

このアンケート結果をカリキュラム内容に照らし合わせた結果、座学の割合が比較的多い回および講義内容が比較的難しい回は評価が低く、逆に演習時間が多い回は高評価を得る結果となった。このことから講義時間内における座学と演習の比率は受講生の理解を助けるために重要な要素であ

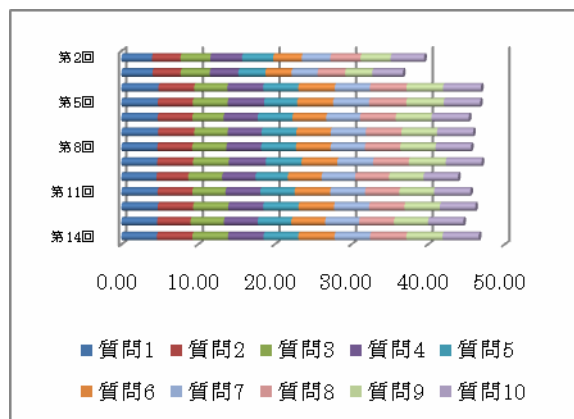


図 3 アンケート結果

るといえる。

また、第 2 回、第 3 回のアンケート結果をもとに反省を行い、演習項目を増やすなど講義内容に工夫を加えた結果、第 4 回からは高評価を得られた。

但し、第 10 回は他に比べて評価が低かった。この回は「CSS の役割と文法」という内容で、初めて HTML を扱う受講生にとっては難度の高い講義であった。次年度以降、このような難度の高い内容の場合には、補助資料の追加、サポートスタッフの追加、講義レベルの変更などの対策をする必要がある。

#### 4. 2. 3 今後の課題とまとめ

本コースが開講し約 4 カ月経過したが、その中で以下に示すいくつかの課題が明らかになった。

##### (1) ユーザ領域の確保

受講生は講義中に各自ファイルを作成するが、そのファイルは PC に保存されるため毎回同じ PC でログインをする必要がある。そのため、Windows サーバでユーザを管理し移動プロファイルを行い、ユーザ領域を確保し、どの PC でもログインできるようにする必要がある。

##### (2) 講義ビデオの提供方法の見直し

現在やむを得ず講義を休んだ受講生や自習に来る受講生に対し講義を録画・編集した DVD を貸し出している。しかし、そのために受講生は本校まで足を運ばねばならず、気軽に復習できる環境にはない。そこで、今までの DVD による復習方法に加え、Podcasting によるサーバ配信による講義ビデオの配信を行い、少しでも気軽に復習ができる環境にする必要がある。

本コースは、平成 21 年 4 月 8 日に開講してから約 4 カ月が経過し、ようやく軌道に乗ってきている。



本コースの役割は、写真など静止画編集の基礎と Web 制作知識、動画の企画・撮影・編集・配信、ショッピングサイトの構築法を学んでもらうことで、

- ホームページを使用した特産品の販売や体験学習・宿泊の予約ができる Web サイトの構築・運営
- 商品の販売や観光サービスを提供している方自身による Web サイトを通じた販売
- 地域の情報をインターネットを通じ動画で発信・共有

といった業務を行う起業家を養成することである。今後、このコースの修了生が上記のような起業を行うことで周防大島町の産業振興に結びつき、周防大島町の活性化の一翼を担う起業家へと成長する事を大いに期待したい。

### 4.3 体験型観光起業コース

#### 4.3.1 体験型観光起業コースの概要

本コースは、都市との交流人口増加のきっかけとなる体験学習やツーリズム、民泊経営の基礎知識を学び、体験学習での指導実習を学ぶ応用コースである。起業家養成基礎コースを修了した受講生、もしくは島内での観光事業や、瀬戸内海をフィールドにした新規事業に関心の高い方、漁業・農業体験を事業にしたい方を養成対象とし、瀬戸内海をフィールドにした新規事業部の立ち上げや新サービスの提供などにより地域再生を目指している。平成 21 年度は 5 月から 8 月にわたり全 14 回を土曜日または日曜日を中心に実施した。

修了要件は、次の 3 つである。

- ① 全 14 回講義のうち 12 回以上出席し、そのうち実際に来て受講するのが 7 回以上で、5 回までは講義の DVD を見てレポート提出で出席に変えることができる。以上で出席率が 80%以上となる。
- ② 修了発表会で事業内容を発表する。
- ③ 事業計画書を提出する。

修了要件を満たした受講生は、全受講生 11 名中 9 名の修了生を輩出することができた。表 6 に平成 21 年度体験型観光起業コースで実施したカリキュラムを示す。

#### 4.3.2 講義の評価

本校教職員以外に、地域再生のプロとして活躍

表 6 体験型観光起業コース

回目	講座名	月 日(土)	内 容
1	オリエンテーション (やりたいこと会議)	5月9日 2.5時間	コース説明、上手な知識創造活動(グループにて課題解決および受講者が何をやりたいかを議論する会議)
2	ツーリズム概論	5月16日 2.5時間	観光及びつりずもうの一般的基礎知識を学ぶ
3	ツーリズム成功学 (ツーリズムビジョン)	5月23日 2.5時間	島のツーリズムビジョンを描く、ツーリズムの特製を深く理解し、ツーリズムで活性化する地域のイメージの形成(滞在交流型観光地域づくり)
4	ツーリズム地域活性化論 (地域コーディネート)	5月30日 2.5時間	ツーリズムを通じた地域コーディネート的手法と事例を学ぶ
5	地域資源の 発掘と活用①	6月13日 4時間	アウトドア学習(海から周防大島を見る):大島の海から見た地域資源の散策を行い、具体的なツーリズム推進策と体験型観光を考えるデータとする。
6	地域資源の 発掘と活用②	6月14日 4時間	アウトドア実習(陸上の周防大島の資源調査)地域資源の散策を行い、具体的なツーリズム推進策と体験型観光を考えるデータとする。
7	ツーリズムと体験型観光 の企画・運営応用①	6月27日 2.5時間	大島の地域資源を活用した体験プログラムの作成(参加者の個人起業プログラム)
8	ツーリズムと体験型観光 の企画・運営応用②	6月28日 2.5時間	体験プログラム情報の共有化とネットワーク
9	実践学習①	7月11日 4時間	ソーラハイブリッド船を活用した体験プログラム作成の具体化①
10	実践学習②	7月12日 4時間	体験プログラムの実践 体験プログラム作成の具体化①
11	ツーリズム(体験型観光) 事業計画策定	7月18日 4時間	体験プログラムの運用における企業及び事業計画の策定 ※個別対応における質疑応答
12	事業計画策定②	8月17日 3時間	体験プログラムの運用における起業及び事業計画の策定 ※個別対応における質疑応答
13	事業計画策定③	8月23日 4時間	体験プログラムの運用における起業及び事業計画の策定 ※個別対応における質疑応答
14	総合評価と 決意表明	8月31日 2.5時間	事業計画の発表及び事業化に向けた決意表明 各事業計画の総評6分

する数名の方々を外部講師として協力依頼を行い、体験型観光の成功例・失敗例や、周防大島で成功するためのノウハウを受講生に教授して頂いた。本校クルーザを使用したフィールドワークの一コマを写真 5 に示す。

これらの講義終了後には毎回アンケートを実施し、改善点等は可能な限り対応した。毎講義において、表 3 に示す 5 段階評価で 4 以上の評価を得る事が出来た。



写真 5 海からの周防大島の資源を探す授業風景

### 4.3.3 今後の課題とまとめ

周防大島町は体験型の観光事業と民泊経営による周防大島町の地域再生の推進を掲げており、本コースは町のニーズに沿ったコースであり、受講生へかける期待は非常に大きい。

今後の課題としては、受講生が周防大島町に民泊経営を行えるように、戦略委員による起業相談会を随時実施していきたいと考えている。

### 4.4 商品開発起業コース

本コースは、周防大島町の農産品を活用した商品開発の流れ（商品企画・デザイン・製造・販売）を実践型で学ぶ応用コースである。起業家養成基礎コースを修了した受講生、もしくは周防大島町の農産品を活用した商品の開発と販売を行いたい中小企業者および農家等を含めた個人事業主を養成対象者とする。全国に知られる周防大島のヒット商品開発を独自に目指すことを将来像とする。現在はカリキュラム（表7）と講師の選定中である。カリキュラム半ばで、食品加工業を目指してお弁当を作成する班と、本校の技術を駆使して農業用の道具（農機具）を作成する班の2班に分かれて開発を行い、新商品開発までの工程と起業のためのノウハウを学べるように計画している。講座は10月24日から1月30日まで全12回・土曜日に行う予定となっている。農機具の開発が9時30分から11時30分、お弁当の商品開発が13時30分から16時で、共に実習の際は終わるまで延長を行う。農機具の開発は本校の教職員によって行うことが可能であるが、お弁当などの食品開発に関しては、シェフや新製品開発の仕掛け人に外部講師として協力して頂く予定である。

### 5. 結言

周防大島町の地域再生を支援する起業家養成「島スクエア」が開講し、1年半が経過した。この1年半の活動で平成20年度には起業家養成基礎コース18名の修了生を輩出し、4名の受講生が実際に起業を行った（内2名は夫婦）。平成21年度起業家養成基礎コースでは、8名が既に修了しており、今後の発表会でさらに数名が修了予定である。また、平成21年度体験型観光起業コースでは9名の修了生を輩出することができた。平成21年度のWeb・動画クリエイター養成コースは講義の半分までできたが、受講生は途中でやめることなく技術を習得している。平成21年度商品開発

表7 商品開発起業コースのカリキュラム

回目	講座名	月日(土)	内容
1	基礎講座(1)	10月24日	商品開発の流れ(様々な事例)考えるべきポイント
2	基礎講座(2)	10月31日	現状分析(一般ニーズと地域資源)商品企画のための絞り込み
3	基礎講座(3)	11月7日	商品企画書の作成(商品コンセプト、ターゲット、流通や広告宣伝方法を文章にまとめる)実習の準備、グループ分け
4	グループに分かれて実習(1)	11月14日	レシピ、メニューなどの作り方、書き方価格、数量を考える設計とCAD(2次元と3次元)
5	グループに分かれて実習(2)	11月28日	1回目の試作・評価(レシピをもとに試作を行う)※必要なら事前に下ごしらえ3Dプリンタによる部品試作
6	グループに分かれて実習(3)	12月5日	2回目の試作・評価(試作を行うとともに、適当なパッケージなどの確認をおこなう)レーザー加工機、CAMIによる部品試作
7	グループに分かれて実習(4)	12月12日	商品のネーミング、キャッチフレーズコンセプトに合ったパッケージ・ラッピング電気で動かす
8	グループに分かれて実習(5)	12月19日	効果的な宣伝・広告空気圧で動かす
9	グループに分かれて実習(6)	1月9日	パッケージやネーミングなど販売方法商品として仕上げる(1)商品の試作と改良(1)
10	グループに分かれて実習(7)	1月16日	パッケージやネーミングなど販売方法商品として仕上げる(2)商品の試作と改良(2)
11	グループに分かれて実習(8)	1月23日	完成した商品の安定的な生産販売に向けて効果的な販売方法と流通、材料調達と在庫管理産業財産権(特許、IPDLなど)
12	修了発表会	1月30日	実習で取り組んだ作品をグループごとに発表

起業コースはこれからスタートされる。これらの活動により、近隣地区における各団体への協力の呼びかけとネットワークづくりが行え、今後に向けての基盤を整えることができた。

本校教職員は、学校の講義は勿論、学校運営、課外活動、研究活動など非常に負荷の掛った業務を強いられている。公務を行いながら、島スクエアの講義や運営を行うため負担は倍以上になったにも関わらず、激務の中、周防大島町のため、そして未来のために努力を惜しまず協力している。教職員の多大なる協力から各コースで考えられる問題を想定し、周防大島町という条件に適した講義内容と講師、運営スタッフ、外部協力団体など多くの面において協力体制を形成することができた。

今後、これらの努力が実り、周防大島町が国内で最も元気のある町となることを期待する。

### 謝辞

本活動は、文部科学省科学技術振興調整費、地域再生人材創出拠点の形成の援助によって行った。記して、感謝の意を表す。

### 参考文献

[1] 広報すおう大島, 山口県周防大島町, 政策企画課, 2009.9